

研究室紹介



キャノングローバル戦略研究所

主任研究員 堅田元喜

● 地球環境問題の本質を知りたい

私の究極の目標は、「あらゆる学問分野を俯瞰しつつ、地球環境問題を正しく理解するための方法論を創出し、世の中に提言すること」です。

私は、化学工学分野の移動現象論をベースとした大気-陸面相互作用という研究分野を推進してきました。茨城大学では、2名の修士学生を指導補助する機会に恵まれ、畜産地帯に囲まれた茨城県霞ヶ浦流域の大気アンモニアの観測や森林での生物由来のエアロゾルの挙動解析などを行いました。それらの成果は、大気環境学会誌、エアロゾル研究、Atmospheric Environment 誌に掲載されました。また、同大学にて理学・工学・農学・社会科学の教員と共同し、企業とともに持続可能な高速道路の緑地管理の在り方を探る「クズプロジェクト (<https://kudzuproject.wordpress.com>)」を立ち上げ、地球環境問題の本質とは何なのか？ということを考えるようになりました。

転機は、2019年の第60回大気環境学会年会に訪れました。60周年記念シンポジウムの講演者であった杉山大志氏(キャノングローバル戦略研究所研究主幹)と知り合い、極めて広範な知識が必要となる地球温暖化問題の探求に取り組むことになりました。入社後まだ日は浅いですが、多様なテーマの最新の知見に触れながら「過去の歴史の定量的な復元」と「真にデータに基づいた解析」の必要性を強く感じる毎日です。興味のある方は、私のホームページの解説記事などをご覧ください。

● キャノングローバル戦略研究所

キャノングローバル戦略研究所(CIGS)の経営理念は、とてもユニークです。「会社のために働いてはいけない。日本のために働くべきである」。このような考えの下、「グローバルエコノミー」、「外交・安全保障」、「エネルギー・環境」、「国際交流」、「財政・社会保障制度」の5つのセクションで、多様な専門家が活動しています。私の所属は「エネルギー・環境」ですが、研究テーマに関する縛りなどありません。月に1度の「CIGSセミナー」では、分野の違いに関係なく毎回活発な議論が起こるので刺激に満ちています。

勤務形態も、極めてフレキシブルです。「研究者とは、時間や場所を問わず24時間何かしら考えているものだ」という考えに基づいて運営されています。オフィスに出勤するという今までしてきた当然の行為がなくなり、初めは戸惑いもありました。しかし慣れてくると、このような環境だからこそ自由な発想が生まれるのではないかと感じるようになりました。遠隔にもかかわらず事務局のサポートも手厚く、寝ても覚めても研究のことを考えることができる毎日に心から感謝しています。

私の掲げている目標は、我ながら大胆かつ極めてチャレンジングだと思います。私一人の力だけではとても成しうるものではなく、様々な科学者や業界人との繋がりを得るための出会いの場や、誰かに否定されることのない自由な発想を生み出せる環境が必要不可欠です。これから本職と大学での学術的な研究活動を並行しつつ、真理を探求し、情報を発信するべく活動を進めていきます。



1980年東京都生まれ。京都大学防災研究所にて、論文博士号(理学)を取得。日本原子力研究開発機構研究員、ドイツ・カールスルーエ工科大学客員研究員、茨城大学講師を経て、2020年8月より現職。茨城大学特命研究員も兼務。究極の目標達成に向けて、学術論文や解説記事などを日々執筆・発信中。
<https://cigs.canon/index.html>
<http://katatalab.icas.ibaraki.ac.jp>



CIGS セミナーの様子(登壇者: 堅田)



茨城県霞ヶ浦での調査
(国立環境研究所の協力)



茨城大学での講義風景



茨城大学の卒業生たち
(第60回大気環境学会年会)